

基本項目	詳細項目	改革前						改革後						第三者評価	
		課題としていたこと	解決方法	平成27年度取組内容	優先度(A~C)	必要予算	達成目標	進捗度	取組の結果できたこと	達成度(A~E)	課題事項・問題点	住民から見た変化	今後の取組方法	達成度	講評
情報公開	会議録・会議映像の公開	本会議以外の会議のようすが市民に見えにくい。	会議録・会議映像の公開率とアクセシビリティを向上させる。	要検討		円	平成 年 月	未着	—	E	—	—			
	議会日程や資料の事前公開	事前に、いつどのような内容の会議が行われるのか市民にわかりにくい。	SNSを通じて、誰でも事前に会議情報にアクセスできるようにする。	要検討		円	平成 年 月	未着	—	E	—	—			
	視察報告の公開	議会又は議員が行う視察の目的・内容が市民に見えにくい。	委員会や会派が行う視察について、視察先の決定過程から視察後の取組、成果までわかるようにする。	要検討		円	平成 年 月	未着	—	E	—	—			
住民参加	ICT活用による市民参加の充実	議会に参加しにくい世代や職業などの市民意見を定期的に把握したい。	SNSを活用して、リアルタイムで多様な市民意見を把握する。	要検討		円	平成 年 月	未着	—	E	—	—			
議会の機能強化	ICT活用による審議・調査の充実	会議での話し合いや調査活動などをより効率的・効果的にやりたい。	全議員がタブレット型端末を所有し、会議資料などのデータ共有化・ペーパーレス化を行う。	タブレット型端末購入経費と通信費を政務活動費により支弁し、全議員がタブレット端末を所有する。	A	0 円	平成 28年 7月	継続	政務活動費使途基準の見直しとともに、無料のスケジュール共有アプリを導入活用したことによって、全議員がタブレット端末を所有した。	A	日常のスケジュール確認やデータ資料閲覧がメイン利用となっており、会議での話し合いや調査活動における利活用が充分でない。	会議開催に係る用紙・印刷・郵送コスト、事務作業コストの削減が図られた。	委員会活動での利活用を図るため、委員会審査・調査のペーパーレス化を進める。		
	政策的議員提案条例の制定	地域課題解決の手法として、議員提案による政策的条例を制定したい。	多様な市民意見を参考にし、議会全体として地域課題解決を図るための政策的条例の策定を進める。	議会改革推進会議の場へ各会派条例案を持ち寄ったうえ、策定体制づくり、策定スケジュール等を協議、決定する。	A	0 円	平成 31年 7月	継続	会派持ち寄りによる、「久慈市地酒等で乾杯を推進する条例案」「久慈市地産地消推進条例案」について、折衷案もしくはどちらか一方の制定目標を平成28年中とすることを決定した。	B	条例制定による高い効果発現を図るため、多くのステークホルダーを巻き込んで条例化を図りたい。	—	外部有識者の招へいや、市民との意見交換を行いながら策定作業を進める。		
	議員定数の適正化	適正な議員定数について結論を導きたい。	多様な市民意見を参考にし、市民に開かれた場での検討・議論を尽くし結論を出す。	検討の前提として、議員報酬との一体的な検討を進めるかどうか、第三者諮問機関に結論の方向性を委ねるかどうか等、結論を出すまでのプロセスデザインを協議、決定する。	A	0 円 100千円 (講師招へい費用)	平成 29年 7月	継続	議員の定数改正・報酬改定の検討に資するため、会議規則改正による協議等の場「議会のあり方検討会議(全議員で構成)」の設置を決定した。	B	「議会のあり方検討会議」が結論を出す討論の場でないことを共通意識に持ち、対話による共通基盤の構築を図りながら検討プロセスをデザインしていくことで、住民説明責任が担保された結論出しへの足掛かりにしたい。	一部議員による検討段階から、全議員による検討段階に移行したことによって、より多くの議員を通じた住民の声が反映されやすくなった。	外部有識者の招へいや、客観的指標となるデータ統計を行いながら対話を進めていく。		

*「優先度」 A：高、B：中、C：低

*「達成度」 A：全て(100%)、B：概ね(75%)、C：半分(50%)、D：一部(25%)、E：未着(0%)